

## 平成28年度第1回大井町子ども・子育て会議概要

日 時 平成28年9月6日（火）13時30分～15時20分  
場 所 大井町保健福祉センター 2階 第1ボランティア室  
出席者 西山委員 橋本委員 野中委員 石渡委員 吉岡委員 佐藤委員（稲垣委員代理）  
遠藤委員 石井委員 堀内委員 有森委員 山本委員 甲斐委員（江崎委員代理）  
欠席者 大澤委員  
事務局 橋本子育て健康課長 石井主幹 森谷副主幹 宇佐美社会福祉士 市川主査

### 1 開 会

ただいまから平成28年度第1回大井町子ども・子育て会議を開催する。会議資料及び会議概要については大井町のホームページに掲載するのでよろしく願います。開催にあたり、子育て健康課長よりあいさつする。

### 2 あいさつ（子育て健康課長）

本年4月1日付で新たに大井町子ども・子育て会議の委員に就任された方につきましては、本町の子ども・子育て事業の推進のため、委員をお引き受けくださり感謝申し上げます。

本来であれば町長から委嘱状を交付するところであるが、公務のため机上配布とさせていただきます。

さて前年度から子ども・子育て支援新制度が始まった。平成27年度に実施した事業は、教育・保育施設では、大井保育園の定員を70名から80名へ拡大、また栄光愛児園さみどり分園の建設補助を実施するなど、保育の受け皿の確保を滞りなく行うことができた。

また、幼稚園関係では、相和幼稚園において早朝保育・延長保育の実施、長期休業の保育の実施、大井幼稚園・大井第二幼稚園では預かり保育を17時まで延長するなど、新たな幼稚園運営に取り組んできた。

そして児童関係では、おおい・かみおおい児童コミュニティクラブの備品購入や、おおい児童コミュニティクラブのトイレ改修と床の建具改修等、相和小学校では小規模特認校制度の導入、放課後教室実施にあたり施設改修を行うなど、受け入れ態勢の環境整備に取り組むとともに、計画の推進に努めてきた。

本日はこれらの実施状況報告をするとともに、平成27年度の子ども子育て支援事業の点検評価を議題とさせていただいた。皆様の忌憚のないご意見を賜りたい。

### 3 自己紹介

※委員名簿記載順に自己紹介

※資料確認

※大井町子ども・子育て会議条例第6条により、会長が議長となるため西山会長に議事の進行を依頼

## 【会長よりあいさつ】

それでは議事の進行をさせていただく。先ほど課長のご挨拶の中でもお話しがあったとおり、子ども・子育て支援の新制度が平成27年度からスタートした。翌年度にあたる平成28年度もすでに半年近くになろうとしているが、1年目の状況がどうかということが今日の中身の中心になるかと思われる。大井町は、ご承知のように面積もそれほど広くないし、人口もそれほど多くはなく、全体が見渡せる範囲にあると思う。新制度が全国各地で始まっているわけであるが、行き届いたサービスの実現が、取り組みによっては十分可能な要素をたくさん抱えているかと思われるので、今後に期待していきたいと考える。今日は新しい委員も何名かいらっしゃるが、この制度はいろいろな制度があり、初めて聞くこともあるかもしれないし、よく分からないところもあるかもしれない。委員会だからといって難しいことを議論するわけではないので、率直に気づいたところをどんどん言っていただき、あるいは分からないことを事務局に助けていただいて構わない。その中から議論を発展させていただければありがたいと思う。

事務局については、私から以前提案させていただいたと記憶しているが、今回初めて実現ということで、栄光愛児園の現場の見学に行かせていただく。いろいろな議論の中で、委員の皆様、自分のエリアはお分かりだと思うが、他のエリアのことは自分の目で確かめないと分からないという面が多々あると思うので、ご協力いただいたことに感謝する

また先日は、被虐待児研修についても委員の皆様にも事務局の方からお声掛けいただき、私も参加させていただき、大変参考になった。

年2、3回のこの委員会だけでなく、日常の中で子ども子育てのあり方をひとりひとりが認識し、あるいは大井町の現状を把握していただければと思う。それをベースにいろいろと議論することで、ますますの発展ができるのではないかと考えている。

## 4 議 題

### (1) 平成27年度大井子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

※大井町子ども・子育て支援事業計画書及び資料1-1～1-3、参考資料に基づき事務局から説明

## 【会長】

資料1-1で幼稚園と保育所の状況を伝えている。これは参考だが、待機児童数は各市町村によって捉え方がまちまちで、市町村もゼロにするという数字だけにこだわって中身を疎かにしているところもある。待機児童がゼロでも様々な問題を抱えていたり、逆に待機児童が大勢いてもきちんとした対応をしているところもある。国もその定義を一律とするべく検討を始めることになっているので、待機児童の算出方法ももう少しきちんとしたものになっていくと思う。幼稚園・保育所の実態については、説明の中でもあったが、幼稚園は定員の約半数で十分充足されておるが、保育所は今後少しずつ増えていくことも予想される。そのあたりを踏まえて、ご意見、ご質問、お気づきの点があれば挙げていただきたい。

子どもの絶対数はどんどん減っており、私の子ども時代は年間200万人くらいの出生が

あったが、今は、総人口は多いが年間の出生数は100万人くらい。現在はさらに女性の社会進出の機会が増え、保育所はこれからどんどん必要になっていく。幼稚園と保育所の人数の乖離現象が起きており、国が幼保一体型の認定こども園に取り組んでいて、その数も十分増えている。近隣では中井町が早速実施している。大井町もどういう風に克服していくかのイメージを持っていただきたい。5年計画ではすぐに終わってしまうので、仮に認定こども園を導入する場合、準備も必要でこのままの推移をただ見ていけばいいのか、幼稚園は幼稚園の枠組みのなかで、保育所は保育所の枠組みの中だけで見ていだけでいいのか。事務局の方でそのあたりのお考えがあればお示しいただきたい。それから中井町の情報があればいただきたい。

#### 【事務局】

認定こども園ということで、先ほど会長がおっしゃったとおり、需要のバランスが幼稚園と保育園で徐々に変わってきている。バランスがここでどうなるか、方向的には保育所の人数の需要が増えてくるのではと考えている。認定こども園については、まず施設が必要であるというのが前提で、状況を踏まえつつ、見極めをなるべく早めにみていきたいと思うが、現地点ではどのタイミングで着手するかを申し上げるところではない。

#### 【事務局】

中井町の状況だが、小学校への円滑な接続という目的で、主に教育部局が中心となって設立したという話を伺っている。保護者の方が利用に関してどういう反応があるかという話までは聞いていないが、多少の混乱はあるようである。認定こども園は、メリットだけではなくデメリットもあり、一番のメリットは仕事の有無に関わらず1か所で子どもが入所できるということであるが、そのような中で、フルタイムで働く保護者の方は別として、短時間で就労している方が、認定こども園のなかで保育認定になったり教育認定になったりと認定区分が移行することもあるようで、その辺りが事務局側からすると、大変複雑な制度になってしまったと感じているという話は聞いている。

#### 【事務局】

教育の方から申し上げる。認定こども園については、町長から研究をしてみるようにとの指示をもらっている。今、保育の方から話があり、また後ほど説明をするが、預かり保育の時間を延長したことにより、希望数がものすごく増えている。お勤めされているお母さんだけでなく、お勤めされていないお母さんも利用されているので、数が増えたイコール認定こども園の必要性にただちに繋がるわけではないが、幼稚園は幼稚園という考え方を、保育園に近づけていく必要があるというところで検討しているところではある。実施する場合、幼稚園の人員不足の問題、施設の問題があり、また、やり方や制度自体を保育園に近づけていく必要がある。今後、認定こども園はひとつの手法として考えていきたい。

#### 【委員】

鶏が先か卵が先かということだと思うが、幼稚園を入れ物として何時から何時まで預かってくれるからそれに合わせた勤務体系にするのか、それとも決まった勤務時間があって、それに合わせて保育園か幼稚園か決めるかが難しいところだと思う。1号認定2号認定も、フリーランスの仕事の方や、通勤時間の問題など、実際家を空けていてお母さんが子どもに接することのできない実時間と、事務側の認定で考慮する時間とでズレがあると感じる。そのあたりが、幼稚園の預かり保育の方にも行くのかなという幼稚園で長く預かり保育ができ

るようになって、保育園の早朝保育・延長保育と同じくらいにならないと、仕事をしていれば初めから保育園を選択するというようになって、保育園の人数がこれからもどんどん増えていくことになる。

女性の社会進出に伴い、昔は近い職場を選んでいたが、今は若いうちから遠くの職場に行きたいとか、キャリアを積みたいなどとなると、早い時間で帰ると仕事自体が成り立たない。そうすると保育園を選択することになる。

私は中井町に以前勤めていたので、中井町の子ども園の印象を申し上げると、中井町は同居率がかかなり高い地域なので、幼稚園に行かされている方は、たとえば上のお子さんの学校行事で預かり保育を利用したいような時でも同居の両親が見てくれる。仕事をされている方でも、地元の工場など近いところで働いている方や、定時で上がれるところに勤めている方が多く、東京に電車で通勤している方は少ない。そういう意味では、こども園の中の保育園部分と幼稚園部分の需要と供給がうまく成り立っていたという印象がある。大井町の同居率・通勤形態が関係してくるところなので、認定こども園ができて、内訳やニーズは変わってくると思う。

#### 【会長】

認定こども園の実施の有無は別にして、いずれにしても幼稚園も保育園もこれからどんどん変動していくと思うので、その中で検討をしていただきたい。表面的にはすべてにメリットがありデメリットがあるのは当たり前のことなので、大井町として今後どうすべきか、検討を続けていただきたい。現場としてどうするかどう考えているか、現場の声を聴いて、反映していただきたい。また、一般の方にも制度の周知をしていただきたい。

資料1-1についてはよろしいか。では資料1-2について意見を賜りたい。初めての方だと事業が分かりにくいかもしれないので、気になることがあれば遠慮なくご質問下さい。

私の方から。「幼稚園における一時預かり保育」だが、計画よりも多くの実績ということで、ご助力していただいたようで感謝している。以前、申込みの使い勝手があまり良くないという話があった。利用の一月前の申し込みだったと記憶しているが、緊急時にとにかく今日、明日預かってほしいというニーズもあると思うので、使い勝手の面で、もう少し間際まで受け付けてほしいという意見があったかと思うが、そこはいかがか。

#### 【事務局】

資料2の裏面に昨年度の実績を掲載している。預かり保育を実施しているのは大井幼稚園と大井第二幼稚園であるが、昨年度は大井第二幼稚園が延べ1000人を超えたということで、預かり保育を始める段階の予想を遥かに超えた。課題や問題点もいくつか出てきており、申込みの数はもっと多かったが、キャンセルも非常に多く、年間を通して25%のキャンセルが出ている。昨年は職員のみで対応するというので、1人ないし2人が預かり保育についていたが、子どもが帰ったあとの事務的な部分もなかなかできず、あるいは職員会議や園内研究など全員が集まらないとできないことがある日は預かり保育ができないということで、預かり日数もかなり制限した中で実施した。キャンセルが多かったのは、締切が早かったということで、もう少し日にちが経たないと日程が確定しないためとりあえず申し込む、日程が分かったところでキャンセルをする、という保護者が多かったためである。ただ幼稚園からすると申込みの人数で職員を振り分けるので、多い日にはそれなりの職員を配置するわけだが、フタをあけてみるとキャンセルばかりでどんどん減ってしまった。また、昨年ま

では4時が預かり保育の期限だったが、なかなか4時に迎えに来てもらえず、4時を過ぎて来られる方も目立ち、預ける方がだんだんルーズになっていくようなこともあった。

また本当の意味での預かりというのは緊急時の預かりであり、緊急時に預かってもらえないのでは意味がないというのが保護者へのアンケートでも出ており、確かにその通りだといえる。その辺りを今年度預かりを実施するにあたって改善した。ひとつは申込みの時期をできるだけ延ばした。保護者が利用しやすいように1週間ほど延ばしたので、キャンセルも減ると期待している。緊急の預かりについては、園長が判断した場合には緊急でも預かるように変更した。結果的には、今年度は緊急での預かりは1件のみで、キャンセル率も6.9%まで減少し、昨年1年通した中で、ある程度保護者の方の理解も得られていると思う。今年度は5月が112名、6月が118名、7月が90名と、単純に3か月の集計をすると320名で、昨年の2倍となっている。また今年からは預かりの体制として、職員プラス預かりの補助員さんにも入っていただき、昨年のように職員がすべてつきっきりというわけではなく、プラス1名になったことで多少はよかった。最終的には専属の方が全部預かりをやっていただけるとありがたいが。昨年は預かり保育ができない日としていた職員会議や、園内研究時だが、今年はその日は原則として補助員さんに見ていただき、職員は同じ園内にいるので何かあれば声をかけていただくということで、預かりの実施日はかなり増えた。預かりができない日は、原則としてお弁当がない日。お弁当がない日は子どもが食事をできなく、持参することも考えたが安全面を考えると好ましくないため。ともかく実施日が大幅に増えたので、利用人数も倍以上に増加したと思われる。ただ、昨年は平均で1日8.8人だったが、通常の教室で実施しているので、10~12人だと混乱はないが、15人を超えると密度が上がる。ちなみに昨日は20人だったが、20人だとかなりすごい。今後利用者が増え、1日の人数が20人を越えると決していい環境ではない。外遊びをさせろという保護者の声もあるが、外遊びをさせるとまったく目が届かなくなる。2人の職員では見きれず、万一の事故やケガへの対応が難しい部分もあるので、今は原則的には部屋の中で遊ぶということをやっている。増えるのはありがたいが、増えすぎるとどうかという懸念はある。

また先ほど、こども園のこともあがったが、県内の公立の幼稚園が55園あり、その中で実際にこども園をやっているところとやっていないところがあるが、実際やっている地区に聞くと、厳しいとか難しいとかいった声を聞く。それは単純に、幼稚園であっても保育園であっても、長い時間子どもを預ければ、同じ年齢の子どもが同じところでやっているからいいだろうという考えもあるだろうが、幼稚園と保育園ではまったく中身が異なり、機能も違う。機能が違うところに一緒に預けてもうまくいくわけがなく、同じ施設の中に保育園と幼稚園が混在しているので非常に厳しい。幼稚園は預かり保育がこれだけ増えてきているが、子どもへの関わりを保育園と比べると、保護者の子どもを育てるという意識、関わりがあり、PTAなど保護者のつながりも強く、それなりによくやっていただいている。それがなくなるとどうなるのか。子育てで一番大事な3歳から5歳の時期に親が子育てに関わらなくなったら、子どもはどうなるのか。子育て支援という立派な言葉があるが、その裏で、へたをするとどんどん子どもと親のつながりを離していつてしまうわけで、このことを考えていかないと、10年後20年後、親とのつながりや関わりが非常に希薄になってしまったままの大人になってしまうのではと感じ、そこが一番怖い。あまりにも親の都合や便利さだけで、大変な世の中になってしまうのではという感想を持っている。

## 【会長】

いろいろとお話しあったが、一時預かりについては園として努力をしているという姿が理解できた。ありがとうございます。他にも大きな課題を挙げていただいたが時間の都合で先に進みたいと思う。ファミリーサポートセンター事業の計画について、今後、住民への説明や支援員の確保について、具体的に何かあるか。

## 【事務局】

今年度は4月から年齢拡大をし、学童保育にあわせて4年生までを対象とした。それを機会として、広報だけではなく学校にもビラを配り、また支援会員の募集も、広報の他にもこういった会議の委員さんや民生委員さんにお声をかけ、アピールさせていただいた。ニーズは年々あがってきており、受け皿として、支援員さんの数字を見ると少ないが、ニーズを賄っていないかというそうではなく、ひとりひとりの何を依頼されたいのかということ仲介人のアドバイザーさんによく聞き取りをしていただいて、それに合わせたかたちで支援員さんをつけてもらっているので、ニーズには100%、質も含めて対応できている。ただおっしゃる通り、PRの件では、「ファミサポって何？」と言われる方もまだまだ多くいらっしゃると思うので、引き続き、学校だけでなく、年度の変わり目に保育園と学童保育でもビラを配布してさせていただき、各医療機関や子育て支援センターでも多くアピールをさせていただこうと思っている。新会員さんにぜひなっていただきたいとお願ひしようと思っている。

## 【会長】

他によろしければ、計画の点検評価についてはこれで終了とする。事務局から資料1-3の説明はないのか。

## 【事務局】

そちらに関しては、説明は省略させていただき、評価内容及び事業の達成率をご確認いただきたい。

## 【会長】

資料1-3は事前に配布されていたと思うが、その中でお気づきの点、また評価に関して何かあれば意見をお願いしたい。なければ私から1点。5ページの出産祝い金支給記録だが、人口増加を図ることを目的に、また子育て支援の側面からも、第3子以降の子に対して支給しているということだが、私なりの考え方を申し上げますと、逆に第1子から、いま子どもが少ない時代なので、ひとりひとりに祝い金を出してもよいのではないかと。予算の関係もあると思うが、第1子が生まれた方に対して祝い金を出し、子どもを支えるためにこれだけの支援をしますということを示すことによって、第2子第3子を生んでも大丈夫ですよというアピールをしていただいたほうが、第3子に祝い金を出すよりも結果的に人口の増加につながるのではないかと。第3子だけでなく、子どもが生まれるたびにお祝いを渡し、大井町としてこれだけの支援をしていきますよということもあわせて伝えていくような形のほうがいいのではないかと。

## 【事務局】

出産祝い金は、平成27年度は20世帯から申請があり、1世帯5万円の支給をしている。平成26年度は24世帯で、4世帯減となっている。毎年、町内での出産は約100人で、100人分の祝い金となると財政的な問題があり、全体を見て第1子から支給するのか、第2子3子と支給するのか、貴重なご意見であるので、持ち帰って検討のひとつとさせていただ

だきたい。今年度は現行のままで実施させていただく。

**【委員】**

8ページの「施策の方向⑦小児医療の充実」内の「就学時健康診断」を今年度、木曜日に実施しているが、前の週が七歳のお祝いで2週連続同じ曜日ではやりくりが難しいという声を聞いたので検討いただきたい。また、平日ではなく土日に実施していただけるか。

**【事務局】**

2週連続では出席が難しいという話は初めて聞いたが、確かにお勤めされている方にとっては厳しいと思うので、検討する。

**【会長】**

他にいかがか。

**【委員】**

病児病後児保育について、自分は利用したことないので分からないが、小田原市に在住の方や仕事仲間などに聞いたことがある。大井町で事業があるならば、働くお母さんにとっては助かると思う。インフルエンザやおたふく風邪などで、熱も下がって元気だが病院の許可がないと登園してはいけない期間など、施設があれば積極的に利用したいのではないか。

**【会長】**

先ほど事務局から説明もあったが、町としてはぜひ事業化したいということで取り組んでいるが、まだ実現化していない。医者絡みのこともあり、町だけではできず、他町とも協議をしているとのことである。

**【事務局】**

保護者の方にとっては本当に大変なことだと思うが、1町だけで実施すると、費用対効果、需要面で難点がある。また、医師会の先生のご協力や、それに必要な看護師さんなどの条件も多々あり、去年は5町での検討会を5回開き、1つの病院に働きかけてお願いしたがうまくいかなかった。積極的に検討している。小田原市と南足柄市は横田小児科さんでやっ

**【会長】**

他にはいかがか。

**【委員】**

先ほど日程の話が出たが、9ページの「すこやか学級」や「家庭教育学級」も平日行われていることが多い。よい講演だが、保育園に通っているお母さん方は参加しづらい。そのあたりも視野に入れながら計画していただけると

**【事務局】**

ご意見をいただいたので、使い勝手のいい日程を調整して考えていきたい。

**【会長】**

今は年度途中なので難しい面もあるかと思うが、今後の日程については利用者中心の視点で考えていただきたい。

**【委員】**

幼保連携の件に関して、幼児期はお母さんやお父さんとの関わりが大切だということ。また、病児病後児の件に関して、子どもが病気の時くらい休めないのか、健診についても大事なものと分かっているのだからその日に合わせて休めないのかということ。世代間の

意識の違いもあると思うが、仕事をしながら子どもとの関わりを一生懸命がんばっているお母さんがいるということ、会議に参加されている皆さんが考えて下さることがとてもありがたいこととなる。会社で働く方はもちろんそれ以外の仕事をしている方でも、休みをとる、時短勤務をするなど、社会の方の制度が整っていないと自分だけそれをするというのがなかなか難しい。インフルエンザで大変な時も本当は休んであげたいが、5日間も6日間も仕事を休めるかというとなかなか難しい。預かり保育の職員さんも若い女性の方が多いが、その方たちも、仕事と家庭の両立が完璧にできているのか、公務員の方や、民間の方で平日働いている方にとっては土日何かあるのはありがたいが、逆に土日働いている方もいる。急な仕事が入ることもある。その中で、子育てをしなければならない、仕事で結果を出していかななくてはいけない、20代30代だとそれがどうしても重なってしまって、何かいい制度がないかと。働いているお母さんは子どもにも申し訳ない気持ちで仕事をしているし、会社にも申し訳ない気持ちで融通を聞かせてもらいながら仕事をしている。その間にある気持ちを、会のみなさんが受け止めることがとても大事だと思う。

#### 【会長】

今、いただいたご意見は、子育てもうそうだし介護もそうだと思うが、また家族でできる部分もあるのではないかと思う。ただ様々な家族の形態があるので、個別の対応も必要である。男女共同参画社会の中で、両方が支え合うワークライフバランスの問題でもあり、子育ての制度自体はワークライフバランスを支える制度だと思っている。委員の皆様もそういった共通認識をもっていただければと思う。今いただいたご意見は、議論を深めるための非常に大きな課題だと思う。

本日は時間の問題もあるので評価についてはここまでとさせていただき、事務局にお返しする。

### (3) その他

※森谷副主幹より、熊本県嘉島町の被災地支援についての報告。

#### 【会長】

貴重なご報告について、委員さんの方で何かあればおっしゃっていただきたい。

本日は第1回の会議ということで、町の制度が少しでも良い方向に発展していくことを期待している。委員さんからも次回に向けていろいろなご意見をいただいた。

なお、資料等については事前に配布されるので事前に目を通しておいてください。

## 4 閉 会

本日は、西山会長の会議進行のもと貴重な御意見等をいただき感謝申し上げます。

以上をもって平成28年度第1回目子ども・子育て会議を終了する。

このあと栄光愛児園さみどり分園の見学させていただく。